

横浜栄・防災ボランティアネットワーク

発 行 日：平成 28 年（2016 年）10 月
発 行 元：横浜栄・防災ボランティアネットワーク
ホームページ：[栄防災ボラネット](#) [検索](#)
連 絡 先：横浜市栄区社会福祉協議会
〒247-0005 横浜市栄区桂町 279-29
TEL：045-894-8521 FAX：045-892-8974
編集・制作：横浜栄・防災ボランティアネットワーク 運営委員会
横浜市栄区社会福祉協議会

横浜栄・防災ボランティアネットワーク 設立 10 周年記念刊行

栄・防災ボラネット10年のあゆみ > そして明日へ >>



平成 28 年(2016 年)10 月

1. 発刊に当たって

● 発刊の主旨

創立10周年を迎えて

代 表 宇田川 淳



横浜栄・防災ボランティアネットワークは、今年の10月で満10周年を迎えました。10周年を迎えることが出来たのも、栄区役所・栄区社会福祉協議会・会員皆様方のご協力・ご支援の賜物と感謝申し上げます。

平成18年10月の創立当初の会員は、32人の個人と32の団体会員でスタートいたしました。現在は51人の個人と35の団体会員になり、毎年2月におこなわれる、災害ボランティアセンター開設・運営訓練を始め、研修会・講習会等を通して、会員相互のスキルアップを目的に活動しています。

近年は地震・洪水等の自然災害が多々発生し、甚大な被害をもたらしていますが、横浜栄・防災ボラネットは平常時の活動として、地域の防災力向上を目的に、各種団体や自治会等への防災講座協力を当初から行ってきました。東日本大震災後の講座依頼をピークに回数が減少しましたが、今年の熊本地震以降、再び増加しています。

また、一昨年には横浜災害ボランティアネットワーク会議のご指導の下「顔の見える関係づくり」を目指して開催している、周辺5区（金沢区、磯子区、戸塚区、港南区、栄区）によるBブロック会議に参加しています。年3回の会議では、共通する課題の検討や情報交換が行われており、広域での相互協力は不可欠と感じています。

今後も、災害ボランティアセンター開設・運営に協力するためのスキルアップ活動や、地域防災力の向上に向け努力して行きたいと思っています。関係の皆様には一層のご支援、ご鞭撻をいただけますようお願い申し上げます。

目 次

1. 発刊に当たって	
・ 発刊の主旨、・ 発刊に際して	2～3
2. ネットワーク発足の経緯と組織	
・ 発足の経緯	4
・ 組織 ・メンバー ・災害発生時の体勢 ・会員の役割	5
・ メンバーの所在分布	6～7
3. ネットワークの体制と連携する組織	
・ 防災組織と支援体制の連携	8
・ 横浜市の支援組織 ・横浜市のプロック別支援体制	8
・ 横浜市から全国にわたる防災支援組織	9
・ 地域の防災力 ・受援力と広域支援体制	9
4. ネットワークのあゆみ＜年表＞	10～11
5. ネットワークのあゆみ＜活動＞	
・ 災害ボランティアセンター開設・運営訓練	12～13
・ 研修会の実施	14～17
・ 出前防災講座	18～19
・ 10周年記念行事 ・刊行物	20～21
6. ネットワークのあれこれ	22～23

● 発刊に際して

横浜栄・防災ボランティアネットワーク設立10周年に寄せて

横浜市栄区長 小山内 いづ美

横浜栄・防災ボランティアネットワークが10周年を迎えられ誠にありがとうございます。日ごろの皆様の活動や取組に対して改めて感謝申し上げます。

この10年間で、日本では様々な自然災害による被害を受けています。地震に関しては東日本大震災や熊本地震、水害に関しては豪雨による広島市の土砂災害や鬼怒川の決壊等、多くの方々被災をし、今なお避難生活を強いられています。あらためて、心よりお見舞い申し上げます。

横浜市内におきましては、30年以内に大地震が起きる確率が81%に達しているという直近のデータが示されており、また、台風等の風水害にも年々注意が必要な状況となっています。栄区で万が一の大災害が起きると、行政だけで対応することはできません。多くの皆様のご協力が必要となります。その際は、市及び区の防災計画に基づき、災害ボランティアネットワークの皆様にもご協力いただき栄区社会福祉協議会とともに、区災害ボランティアセンターの立ち上げから運営をお願いし、共に被災者を支援していくこととなります。

今後とも、日頃からの防災・減災の取り組みを通して、ボランティアの裾野を広げていただき、いざという時に一緒に災害復興に向けてご活動頂きますようどうぞよろしくお願い申し上げます。横浜栄・防災ボランティアネットワークの益々の充実強化と会員の皆様のご健勝そしてご活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。



横浜栄・防災ボランティアネットワーク創立10周年に寄せて

栄区連合町内会 会長 磯崎 保和

横浜栄・防災ボランティアネットワーク創立10周年誠にありがとうございます。

平素は災害活動にご尽力を賜り心から感謝申し上げます。

栄区も昨今、雨・台風の被害が発生しております。平成16年の台風により柏尾川で初めて冠水いたしました。区内の地域の皆さま、自治会・町内会、防災拠点はじめ行政機関、横浜栄・防災ボランティアネットワーク各位の連携を深め災害対策をさらに強化することが不可欠です。

栄区セーフコミュニティの取組と同時に地域ぐるみで安全・安心の町づくりの活動を継続的に、地域の皆さまが様々な防災活動に参加し体験することで地域の絆をさらに深めていくことが大切です。今後ともご支援をいただきますようお願い申し上げます。

結びに横浜栄・防災ボランティアネットワークのご発展を祈念してお祝いのご挨拶といたします。



横浜栄・防災ボランティアネットワーク10周年おめでとうございます。

栄区社会福祉協議会 会長 日浦 美智江

何事も、任意のネットワークが10年という長い年月続き、更に活動は年毎に活発になる、大変な功績だと心から皆様の熱意と努力に敬意を表します。

先の3.11の東日本大震災は私たちに大きな課題を残してくれました。特に避難所での女性、幼児、障害児者の苦労は大変なものでした。その後、女性目線の避難所を考えることが重要だと全国で課題解決の研修、実践が進んでいます。皆様の会員は女性メンバーも多く、これらの問題はすでに取り組まれています。特に先日開催の講座で、避難困難、避難生活困難の問題は当事者から発信していただくのが一番と、当事者アンケートをとり、その結果をお知らせいただき、皆さまの真摯な活動の中身に頭が下がりました。

東海地震の可能性は早くからいわれています。公的な、そして地域の防災活動に加えて、皆さまの活動が存在することは、住民一人ひとりを大切に思う活動として、どれほど心強い事かと思えます。更に絆を強くして栄区の防災の大きな力になって下さることを心から願っております。



2. ネットワーク発足の経緯と組織

柏尾川がきっかけになった横浜栄・防災ボランティアネットワークの誕生

-10 周年記念号に寄せて-

初代表・山本邦夫

「神奈川の河川」誌によると、「柏尾川」は台風の度に氾濫を繰り返す始末に負えない河川の一つであったようです。

平成 16 年 10 月 8 日～9 日にかけて、その年も台風 22 号が栄区の上空を通過し、猛威を振るいました。漸く風が収まった 10 日午前、庭に出て後始末をしていたところへ、ボランティア仲間の大森さんから電話。「柏尾川」が氾濫して長尾台町・田谷町一帯が大変な事になっているという。

当時パソコンボランティア「パソボラ横浜」の代表だった私に、手伝えとの事。事情を聴いて放つてもおけず、仲間の講師たちに電話をかけまくり、現地へ駆けつけたものでした。

現場一帯は凄まじい有様で、日頃パソコンのキーボードにしか触れていなかった年寄りたちが、必死の思いで、濡れた畳や家具などの搬出に奮闘しました。途方に暮れていた住民の方達は泣かばかりに感謝の言葉を述べて下さいました。

初日・長尾台町、2 日目・田谷町と連日の力仕事で、当時、73 歳だった私などは動く度に骨がギシギシ音を立てる思いでした。この事件に遭遇してシミジミ思ったことは、自分たちの町は「自分達で守る仕組み」が是非とも必要という事でした。

台風 22 号の通過は「土・日・祭日」の三連休で行政の出動も遅く、一番大変な時の「援けあい」は地元のボランティアの力が大変お役に立ったという事でした。以来、私たちは有志を募り、「横浜栄・防災ボランティア」組織の設立に尽力しました。老兵の私は早々に引退させて頂きましたが、お陰様で宇田川代表をはじめ素晴らしい後継者に恵まれ、「横浜栄・防災ボランティアネットワーク」の活動は着実に、堅実に引き継がれています。有難い事です。感謝・感謝です。 2016-8-26 記

● ネットワーク発足の経緯

昭和 61 年 1 月、栄区は戸塚区から分区しました。その翌年、ボランティア連絡会も戸塚から分かれて 4 団体でスタートし、その後新たに誕生したボランティアグループの多くが入会し活動が続いている中で、平成 7 年阪神淡路大震災が発生しました。この大震災を受けて、ボラ連では毎年のように防災に関連した課題の検討や調査などを丁寧に行い、シンポジウムの開催や報告書などに纏めてきました。

そんな折、平成 16 年に発生した台風 22 号は直接栄区（笠間・長尾台地域）に大きな水害をもたらしました。翌日、区役所からボランティア協力の要請が休館日であった社協に入りましたが、当時はそのため組織はなく、ボランティア連絡会の会長であった私と社協職員で既存のボランティア団体に電話で連絡をとり、集まった皆さんと現場に駆けつけました。その後、社協がコーディネートしながら数か月に亘って被災地のボランティア活動が続きました。

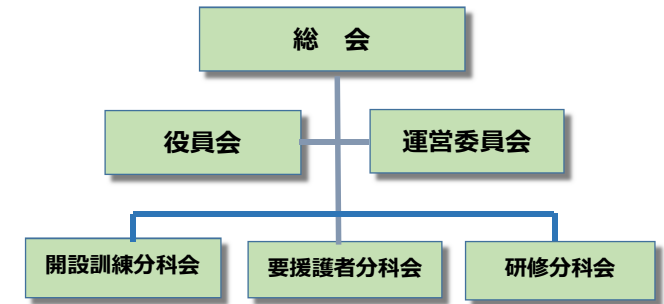
このことが契機になり、初代表の山本さんを中心にボランティア連絡会メンバーの有志や区役所、社協などの職員と共に「地震対策研究会」を作り勉強を続ける中、横浜市から出された「災害ボランティアネットワーク設立」に関するガイドラインに呼応して、設立準備会に移行しました。

準備会では、平時の防災力を高めていくことが何より大切と考え、社協に登録しているボランティア団体、地域の福祉施設、当事者団体等に広く参加を呼びかけ、特に要支援者と連携できる体制の構築も目的の一つとして掲げ、平成 18 年 10 月の設立総会を迎えることになりました。 記：副代表 大森真由美

なぜ「防災ボランティアネットワーク」と命名した？

一般に「災害ボランティアネットワーク」は、「災害ボランティアセンター」の開設・運営に協力することが目的とされていますが、栄・防災ボラネットは平常時の活動（研修会、防災講座、他の防災組織との連携等）も重要と考え、あえて「災害」ではなく「防災」とし、地域防災力向上に貢献したいと考えています。

● ネットワークの組織



（注：現在 分科会は必要に応じて編成される。）

● ネットワーク構成メンバー

ネットワークメンバーは、個人会員と団体会員（福祉団体/施設、一般団体）から成っています。また若い会員の増加を期待して、個人会員の家族も参加できるように平成 25 年に「家族会員」の資格を導入しました。

平成 28 年 10 月現在は、個人会員（含む家族会員）51 名、団体会員 35、で構成されています。

個人会員は 地域の防災関係者、防災に熱意を持って取り組んでいるボランティア、福祉施設や福祉関係職務に携わる個人、防災資格保有者 など含む多数が参加されています。

団体会員はネットワーク発足の経緯にからみ、自治会・町内会や一般ボランティア団体のみでなく、福祉ボランティア団体、障害者団体、障害者支援団体、などから成り、栄区内 6 か所すべての地域ケアプラザ、この 6 ケアプラザを含めた特別避難場所 23 施設のうち 11 施設が加入しています。

（注、横浜市で呼称の「特別避難場所」は、一般の「福祉避難所」に相当します。）

● 災害発生時の体勢

災害が発生し、区の災害対策本部が災害ボランティアセンター（以後「災害ボラセン」）設置を必要と判断した場合、災害対策本部長は栄区社会福祉協議会に対して開設場所を指定して開設を要請します。

栄区社会福祉協議会会長は、直ちに栄・防災ボラネット代表に連絡して開設への協力を依頼します。

参集は、社会福祉協議会の災害時参集要員の集合と共に、防災ボラネットも「災害用伝言ダイヤル『171』」、「Web171」及び「緊急連絡網(電話/PC)」を通じて運営委員、会員に参集を連絡します。

● 災害時の会員の役割

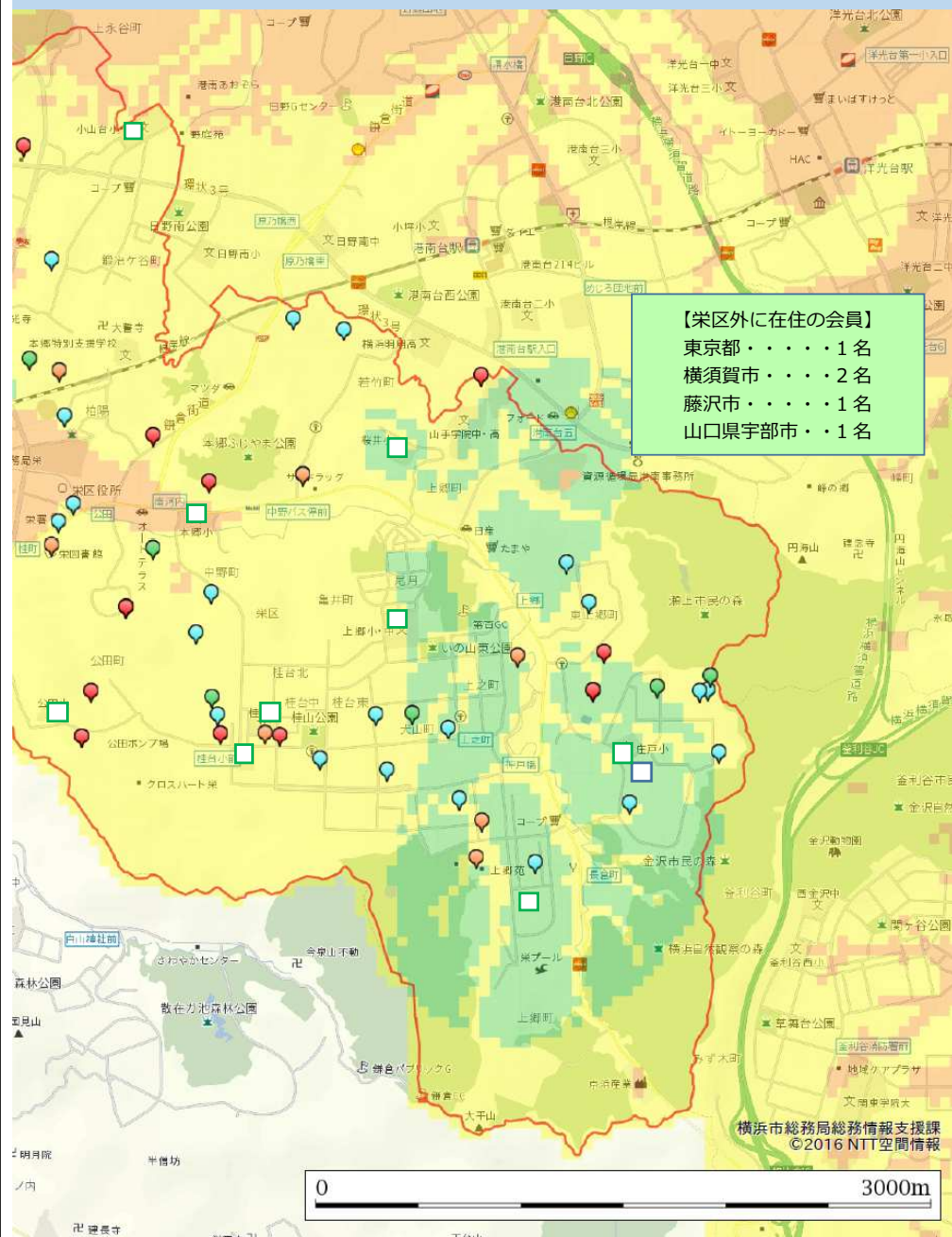
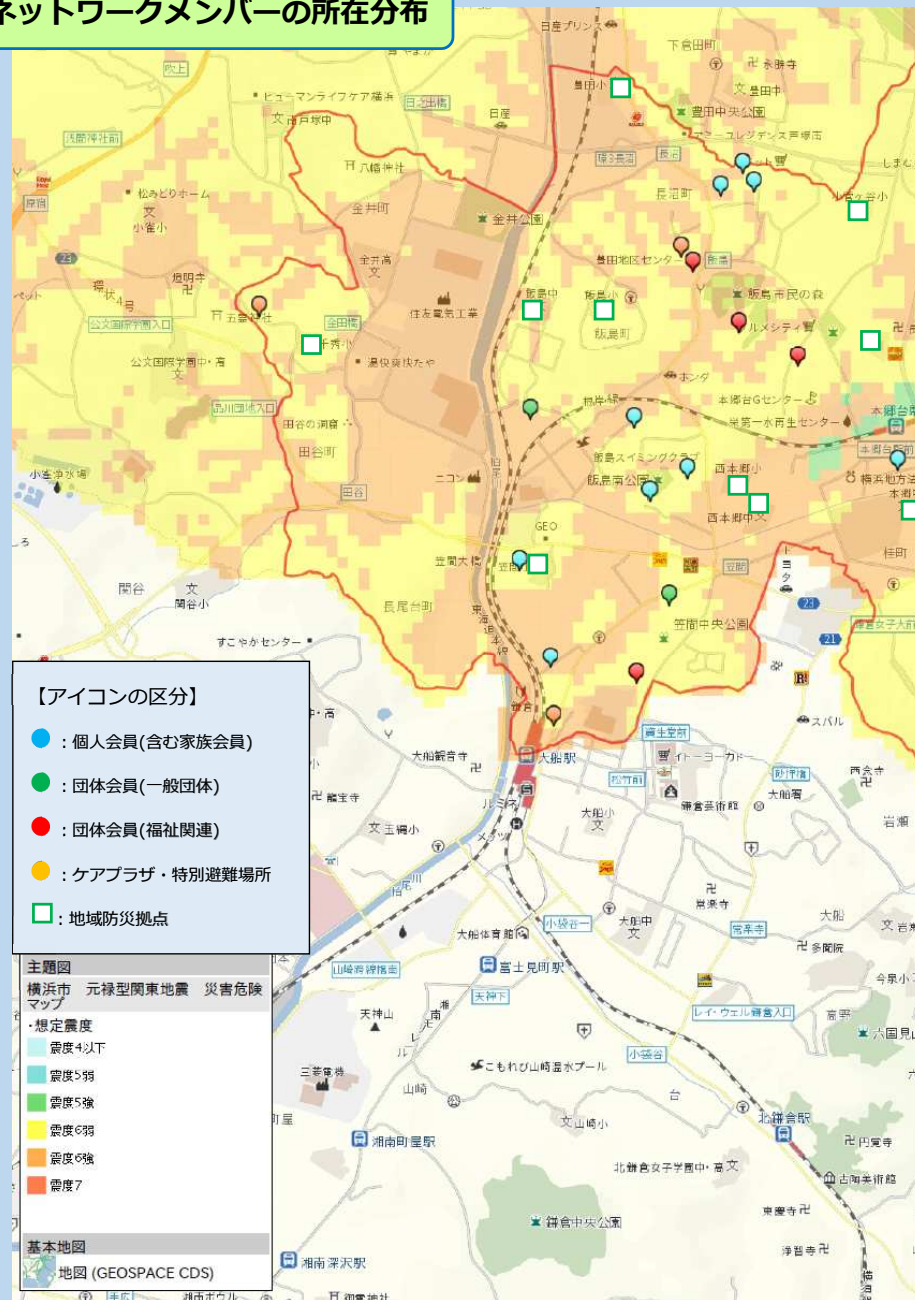
災害時の参集と災害ボラセンの開設作業は 主として個人会員(家族会員を含む)や一般の団体会員のメンバーに分担してもらいます。 各自 自分と家族の安全を確保し、地元の安否結果や被災状況を把握し、参集途中の地域の被害等の情報を携えて災害ボラセンの基本情報として提供することを心掛けてください。

福祉ボランティア団体のメンバーは、先ず自分自身と家族の安全を確保してから、所属する施設や団体の要援護者等の安否を、要援護者の所属する地域の組織や民生委員・児童委員などと共同して確認し、以後の地域と所属グループの活動に従って行動して頂きます。この際 必要な支援ニーズ等を、地域防災拠点や地域避難所の運営委員を助けて、区の災害対策本部や災害ボラセンに発信することが望まれます。

その後のボラネット会員の役割は、まず家族の安全と生活の確保、居住地域や勤務先の安全確認ののち継続している災害ボラセンの運営に交代で携わるように協力を願います。

2. ネットワーク発足の経緯と組織

● ネットワークメンバーの所在分布



3. ネットワークの体制と連携する組織

● 防災組織と支援体制の連携

栄区の災害対応組織は、各自治会・町内会の防災組織（地域避難所を含む）、地域防災拠点、区の災害対策本部と公的機関で構成されていますが、地域のみでは災害復旧に対応できないような状況には、地域外の区内や、区の外部からの救援や復旧支援として災害ボランティア（以後 ボランティア）の力を借りることになります。

（無線・重機・警備などの専門性のあるボランティア活動は区災害対策本部で活動が調整されます。）

災害対策本部の判断で、内外の支援を被災地域に導入することになった場合に必要なのが、区内の各地域に在住するメンバーによって運営される災害ボラセンです。

災害ボラセンでは、被害状況に応じて、先ず区内他地域から、市内他区から、市外県内から、さらに地域ブロック、そして全国からのボランティアを受け入れるように広報を発し、支援に駆けつけた災害ボランティアの方々に作業の安全を確認した支援ニーズを説明し、その作業に適切な人によるグループを構成し、活動先までの安全な経路の地図や活動に必要な資機材を渡して、出発してもらいます。

ボランティアの人たちには、支援現地での指示された作業を安全に終了後、揃ってセンターに帰着し、作業報告書を作成した上で、センターに報告、作業の完了状態・継続した作業の必要性・作業の安全性などを伝えてもらい、翌日の支援作業に備えます。

● 横浜市の支援組織

横浜市内では市内全 18 区に設立されている災害ボランティアネットワークが 各区の社会福祉協議会、区の災害対策本部のボランティア班と共に開設する「災害ボラセン」を支援の拠点とします。

各区の災害ボラセンは、横浜市社会福祉協議会と市域の災害ボランティア団体によって開設される「横浜市災害ボランティア支援センター」が統括し、各区のセンターの開設状況、地域の被災状況に応じた各区センターの機能の充足状態、などを確認し、必要に応じてセンター活動の支援要員を派遣して展開に支障ないように備えます。

● 横浜市のブロック別支援体制

市内各区の災害被害には、地震、津波、風水害など災害の種類とその程度や地域の地勢・環境によって被害にも軽重があり、また過去の災害でも多くの例があったように、行政、社会福祉協議会、災害ボランティアネットワークなどが被災して機能しないような事態に陥ることも考えられます。

横浜市ではこのような事態に対処するために、市内 18 区をそれぞれ 4～5 区から成る A～D の 4 ブロックに分け（右図）、被害に大きな偏りが出た場合、先ずブロック内での相互支援で災害直後の支援体制をカバーし、その後市の「災害ボランティア支援センター」による調整を受けることになります。

栄区は B ブロックに属し、磯子、金沢、戸塚、港南の各区とともに、相互の支援を円滑に進めるための連絡会議（**B ブロック会議**）を定期的に関いて連携の手法や内容について確認しています。



● 横浜市と周辺都県市、関東圏内から全国にわたる防災支援組織

阪神淡路大震災を「ボランティア元年」とする ボランティアによる被災地支援は、災害多発の国内の状況に大いに寄与し、全国で多くのボランティア組織が災害発生後短時間で活動を開始できる体勢を整えるまでになってきています。

横浜を取りまく救援・支援組織も、神奈川県、各政令指定都市、各市区町村、の公的な組織・体制と共に、それぞれの「社会福祉協議会＋災害ボランティアネットワーク」による災害ボラセンの開設体制を整えてきています。

また 関東ブロックの中での公的な救援・支援体制の一環として、9 都県市（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、横浜・川崎・相模原・さいたま・千葉の各政令指定都市）による合同防災訓練が毎年実施され、災害時の救助・救援体制や物資の配送訓練等が、陸・海・空の機能を総動員して実施され、相互の連携の確認を行っています。

● 地域の防災力・受援力と広域支援体制

これら各地域に密着した防災体制の充実と、救援・支援体制の準備が、地域の防災力の強化につながり、災害に対応する基本になりますし、これら地域内の救援・支援体制を外部から支える全国の災害ボランティアの力については、数多くの被災地で種々の経験を積んで 新たな被災地にその経験が活かされ、即応性や広い活動能力を発揮して被災地・被災者から大いに感謝されていることは広く伝えられていることです。

ただ、「災害の数だけ支援の方法がある」の言葉通り、支援の内容は災害によって、また地域によって異なるものになります。このため、経験から得た支援活動のノウハウでは対応できないケースが生じたり、被災地の地域性や環境を理解するのに戸惑ったり、と混乱が見られる例も多々出てきています。

この状況に対応するために全国の災害ボランティア活動を支援するネットワークとして、

1. **社協ネットワークにおける災害ボランティアセンター支援体制**：社会福祉協議会は全国すべての都道府県、市町村に存在し、地域に密着して地域特性を熟知し、中長期的な被災者支援ができる地元の民間組織であるという機能を活かして、災害ボラセンの開設・運営の中核として活動します。
2. **災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援 P)**：全国段階として 2005 年に中央共同募金会に設置され、多様なセクターの連携を目指すもので、災害ボランティア活動に寄与するための支援の柱をくひと、モノ、資金に置いて その有効活用を図ります。ここで「モノ」資機材支援品の例では、①災害ボラセンの事務用資機材、②災害ボランティア活動の資機材・消耗品、③被災者支援物資(うるうるバック)などが挙げられます。
3. **JVOAD**(ジェイボアード：Japan Voluntary Organizations Active in Disaster)：災害時は様々な活動者による支援が行われますが、これまでの災害では その全体像を把握し 支援を調整する機能が不足していた、との反省から 災害時の連携を考える全国フォーラムを形成し、災害ボランティア関係者同士の顔の見える関係を構築して、主として県域の災害に対応しようとしています。参加団体としてジャパン・プラットフォーム、震つな、日本青年会議所等が、またオブザーバーとして、支援 P、全国社協、日赤、JCN 等 が参画しています。(10 月時点で「準備会」の段階)
4. **各種支援組織**：日本生協連、ピースボート災害ボラセン、各種宗教団体などの災害地支援組織、日本財団等のボランティアリーダー人材育成策定、など直接・間接に支援する体勢が構築されています。
5. **内閣府**には 防災ボランティア活動促進検討会、広域連携の意見交換会、などが設置されています。このように連携する機能の調整と充実化が進んでいます。

地域周辺の支援体制の変化と同時に、地域自体の防災力の向上も進められてきていますが、これをさらに推進していく方向は、まず自分の住む地域を襲う災害、それを予知する方法、さらに危険を判断して避難する時期と方法、などを想定し、周囲にも知らせて、特に災害時要援護者である障害者などへの配慮「ひとりも見逃さない」を整えることで**地域の受援力**を上げる活動が強く望まれます。

4. ネットワークのあゆみ＜年表＞

ネットワークのあゆみ 年表 （年表は年度でなく暦年で記してあります）

平成 7 年（1995 年）

- ・ **1 月 17 日(火)** 阪神淡路大震災(兵庫県南部地震) **M7.9、最大震度 7**
- ・ **3 月 25 日(土)** 能登半島沖地震 **M6.9 震度 6 強**
- ・ **7 月 16 日(日)** 中越沖地震 **M6.8 震度 6 強**

平成 16 年（2004 年）

- ・ **10 月 8 日(火)～9 日(水)** 台風 22 号の豪雨により **栄区内で水害発生**
- ・ **10 月 10 日(木)・11 日(金)** 被災地区 笠間、長尾台町の支援のため**ボランティアが出勤**

平成 17 年（2005 年）

- ・ 8 月 8 日(月) **ボラネット開設準備委員会発足**

平成 18 年（2006 年）

- ・ 10 月 17 日(火) **ボラネット設立総会**（栄区役所）

平成 19 年（2007 年）

- ・ 4 月 21 日(土) 平成 19 年度総会（栄区役所）
- ・ 4 月 21 日(土) わがまちの防災対策を語るつどい
テーマ：「援護が必要な方への支援をどうする」
基調講演：豊島区介護保険課係長 高橋 洋氏
パネル討論：コーディネーター：中川和之氏
オブザーバー：横浜市健康福祉局 伊藤和人氏
パネリスト：鈴木徹郎氏、鈴木方智氏、尾家靖雄氏
雨宮 久氏、梅津三彌氏

平成 20 年（2008 年）

- ・ 2 月 16 日(土) 第 1 回 災害ボランティアセンター開設訓練（栄区役所）
- ・ 4 月 栄区危機管理担当係長 新設
- ・ 5 月 17 日(土) 平成 20 年度総会
- ・ 5 月 17 日(土) 講演会：「平成 18 年下諏訪町水害おせっかい隊」長野県下諏訪町社協 青木 航志氏
- ・ **6 月 14 日 岩手・宮城内陸地震 M7.2 震度 6 強**
- ・ 9 月 16 日(火) 第 2 回 災害ボランティアセンター開設訓練（栄区役所）

平成 21 年（2009 年）

- ・ 2 月 22 日(月) 第 3 回 災害ボランティアセンター開設訓練（栄図書館）
- ・ 3 月 冊子「わが子を災害から守るために」刊行
- ・ 4 月 18 日(土) 平成 21 年度総会（栄区役所）

- ・ 4 月 18 日(土) 栄防災フォーラム（栄区役所）
テーマ：「防災市民力」
第一部 講演「市民が主役、行政は支え役（横浜市の危機管理）」横浜市危機管理監 上原 美都男氏
第二部 対談 「防災市民力あれこれ」
上原 横浜市危機管理監・光田 栄区長
司会：運営委員 中川 和之
- ・ 9 月 5 日(土) 第 4 回 災害ボランティアセンター開設訓練（八都県市合同防災訓練 上郷中学校）
- ・ 11 月 16 日(月) 防災講演会 「地域の防災力を高めるために “災害救援の現場から”」栗田 暢之氏（小菅ヶ谷地域ケアプラザ）

平成 22 年（2010 年）

- ・ 2 月 27 日(土) 第 5 回 災害ボランティアセンター開設訓練（栄区役所）
- ・ 4 月 17 日(土) 平成 22 年度総会（栄区役所）
- ・ 4 月 17 日(土) 栄防災フォーラム（栄区役所）
1. 講演：「大地震を生きぬくために」
栄区危機管理担当係長 九十九澤 稔氏
2. 実践：災害対応カードゲーム「クロスロード」
（災害ボランティア編）参加者全員で実施
- ・ 5 月 29 日(土) 2010 年度 栄・災害対策研修会（栄区役所）講演：九十九澤 稔氏、稲葉 和弘氏、清水 満夫氏、東京工業大学 翠川 三郎氏
- ・ 11 月 16 日(火) 「東京ボランティア市民活動センター コーディネーター養成講座」主催：東京都社協(TVAC)（講座担当：大森、宇都宮）

平成 23 年（2011 年）

- ・ 1 月 22 日 山口県宇部市「市民防災力アップセミナー」（講演・パネル：大森、千葉）
- ・ 2 月 19 日(土) 第 6 回 災害ボランティアセンター開設訓練（栄区役所）
- ・ **3 月 11 日(木) 東日本大震災 M9.0 震度 7**
- ・ **3 月 12 日(金) 長野県北部地震 M6.7 震度 6 強**
- ・ **3 月 15 日(月) 静岡県東部地震 M6.4 震度 6 強**
- ・ **4 月 7 日(水) 宮城県沖地震 M7.2 震度 6 強**
- ・ 5 月 14 日(土) 平成 23 年度総会（栄区役所）
- ・ 5 月 14 日(土) 栄防災フォーラム（栄区役所）
テーマ：「その時あなたは！これから何を！」
グループワークを実施

- ・ 9 月 3 日(土) 2011 年度 栄・災害対策研修会 第 1 回（本郷地区センター）「災害ボランティアセンターの役割」講演、報告、グループワーク
- ・ 11 月 13 日(日) 第 20 回ボランティアフェスティバル「市民がつくる 強くしなやかな社会」（青山学院大学）鍵屋 一氏パネル：大森
- ・ 11 月 20 日(日) 2011 年度 栄・災害対策研修会 第 2 回（本郷地区センター）
「地域と災害ボランティアセンターとのつながり」
パネルディスカッション

平成 24 年（2012 年）

- ・ 2 月 25 日(土) 第 7 回 災害ボランティアセンター開設訓練（栄区役所、福祉保健活動拠点）
- ・ 4 月 21 日(土) 平成 24 年度総会（栄区役所）
- ・ 4 月 21 日(土) 2012 年度 栄・災害対策研修会 第 1 回（総会第 2 部 栄区役所）講演：「マップを使った防災コミュニケーション」須永 洋平氏
- ・ 9 月～2013 年 3 月 e-防災マップ活用研修会 9 月 9 日(日)・10 月 14 日(日)（基礎）
11 月 11 日(日)・12 月 9 日(日)（応用）
(2013 年) 1 月 13 日(日)・2 月 10 日(日)(実施)
(2013 年) 3 月 10 日(日)(まとめ)
第 1～7 回 講師：青木 航志、松田 成人
- ・ 12 月 8 日(土) 2012 年度 栄・災害対策研修会 第 2 回（福祉保健活動拠点）講演：「復旧から復興へ 一宮城県の過去・現在・未来」東北大学 池田 真幸氏

平成 25 年（2013 年）

- ・ 2 月 16 日(土) 第 8 回 災害ボランティアセンター開設訓練（栄区役所）
- ・ 4 月 20 日(土) 平成 25 年度総会（栄区役所）
- ・ 4 月 20 日(土) 栄区防災計画に伴う意見交換
～災害ボランティアセンターについて～
- ・ 7 月 7 日(日) 2013 年度 栄・災害対策研修会 第 1 回（福祉保健活動拠点）
テーマ：「栄区のこと一緒に考えてみませんか」
- ・ 12 月 14 日(土) 2013 年度 栄・災害対策研修会 第 2 回（福祉保健活動拠点）
講演：「災害ボランティアセンター支援体験から」川崎市社協 平林 秀敏氏
グループワーク：ニーズ聞き取り訓練

平成 26 年（2014 年）

- ・ 4 月 19 日(土) 平成 26 年度総会（栄区役所）

- ・ 4 月 19 日(土) 講演会：（総会第二部）
「女性と男性の力で総合防災力アップ」浅野幸子氏
- ・ **8 月 20 日(水) 「平成 26 年 8 月豪雨」
（広島土砂災害）**
- ・ **10 月 13 日(月) 台風 19 号 上陸・接近、
栄区内に避難指示が出された**
- ・ 12 月 6 日(土) 2014 年度 栄・災害対策研修会（福祉保健活動拠点）
テーマ：「災害ボランティアセンターを もっと もっと もっと 知ろう」講演とクロスロード

平成 27 年（2015 年）

- ・ 2 月 21 日(土) 第 9 回 災害ボランティアセンター開設訓練（栄区役所 新館 4 F）
- ・ 4 月 18 日(土) 平成 27 年度総会（栄区役所）
- ・ 4 月 18 日(土)（総会第 2 部）講演会：片山 晋氏
「防災・減災は家庭と地域の取り組みが決め手」
- ・ 7 月 25 日(土) 2015 年度 栄・災害対策研修会 第 1 回（福祉保健活動拠点）
テーマ：「あなたははどうする 豪雨・がけ崩れ」
- ・ 8 月 23 日(日) カエルキャラバン参加・協力（桂台ケアプラザ）
- ・ **9 月 9 日(水)～11 日(金)「平成 27 年 9 月関東・東北豪雨」(鬼怒川破堤、常総市内広範囲が水没)**
- ・ 12 月 5 日(土) 2015 年度 栄・災害対策研修会 第 2 回（福祉保健活動拠点）
テーマ：「豪雨災害や土砂災害から命を守る」講演とクロスロード

平成 28 年（2016 年）

- ・ 2 月 15 日(月) 第 10 回 災害ボランティアセンター開設訓練（栄図書館）
- ・ 3 月 21 日(月) 栄区防災フェア（本郷中学校）
- ・ **4 月 14 日(木)・4 月 16 日(土)「平成 28 年熊本地震」(最大 M7.3 最大震度 7)**
前震：14 日 21 時 26 分、本震：16 日 1 時 25 分
- ・ 4 月 16 日(土) 平成 28 年度総会（栄区役所）
- ・ 4 月 16 日(土) 栄・災害対策研修会 第 1 回（総会第 2 部）「地域の受援力と広域支援体制のこれから」講演とパネルディスカッション
- ・ **8 月 30 日(火)「岩手・北海道豪雨」(台風 10 号)**
- ・ **10 月 8 日(土) 阿蘇山噴火 噴火警戒レベル 3**
- ・ **10 月 21 日(金) 鳥取県中部地震 M6.6 最大震度 6 弱**

5. ネットワークのあゆみ＜活動＞

● 災害ボランティアセンター開設・運営訓練

ネットワークの本務である災害ボランティアセンターの開設・運営に関して訓練の回数を重ねてきています。被災地域から届く救援・支援要請に対して災害ボランティアの人たちに、活動内容を理解して安全な作業を実施し、作業を終えて帰着してもらう。このためにネットワークの会員には広い範囲に及ぶセンター業務のスキルを身に付けてもらう必要があります。

一般的な開設・運営訓練では、災害ボランティアの受付から、活動・帰着・報告までの一連の流れをシミュレートする例が多いのですが、実際の運用面に配慮して、支援ニーズの内容確認やオリエンテーションのテクニックなど、センターの機能を部分的に取り上げた訓練も実施してきました。

各訓練の実施項目（①、②、③等）は下図のセンター機能に対応させて示します。

第1回 平成 20 年(2008 年)2 月 16 日(土) (栄区役所新館 4F 8,9 号会議室)

災害ボランティアセンター(以下「災害ボラセン」)開設訓練 ①設置と流れ確認を中心に実施。
市危機管理監、市災害ボラネット会議課長、港北区・金沢区代表、参加

第2回 平成 20 年(2008 年)9 月 16 日() (栄図書館)

区指定の栄図書館で、災害ボラセン開設訓練を実施。①受付からボランティア帰着報告までの流れを、参加者を 2 班に分けて交互に体験しながら実施。図書館使用の限度も確認した。

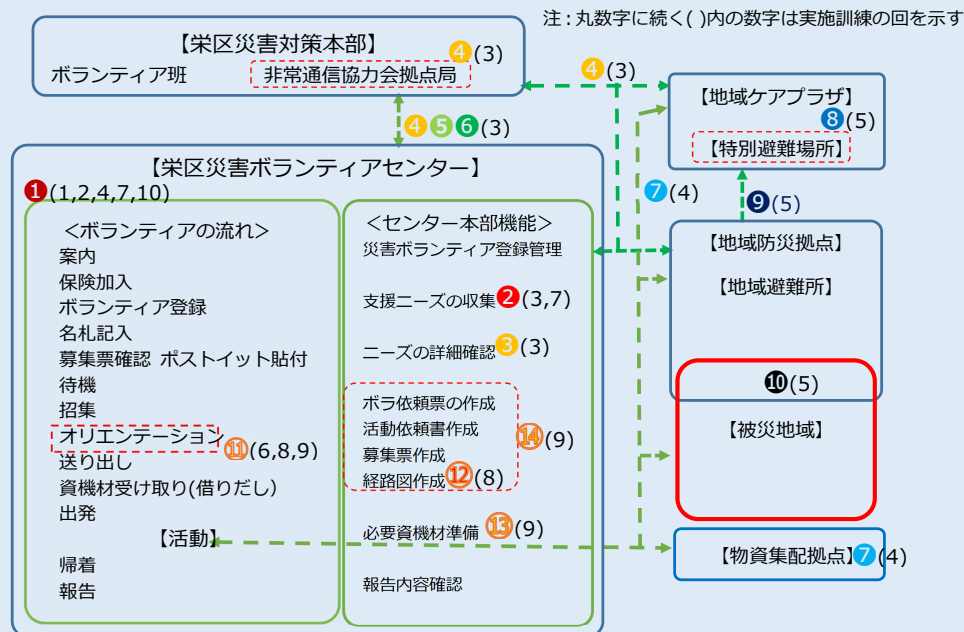
第3回 平成 21 年(2009 年)2 月 22 日() (栄区役所)

②被災地・避難所のニーズ収集、③ニーズ分析、④区内各所と無線連絡での情報受発信、⑤被災情報収集、⑥図上伝達訓練。地域防災拠点運営委員会、自治会からも参加。

第4回 平成 21 年(2009 年)9 月 5 日(土) (上郷中学校 体育館)

八都県市合同防災訓練で栄区が横浜市の担当区を担った際、①上郷中学校に災害ボラセンを開設し、⑦物資の搬入・仕分け・運搬・積み込み活動、区内拠点へのトラック搬出など物資収集拠点の役割を実施した。同時に防災講座も実施し、横浜市長、横浜市危機管理監の視察を受けた。

● 災害ボランティアセンターの機能と訓練内容の対応



第5回 平成 22 年(2010 年)2 月 27 日(土) (栄区役所 1F)

要援護者や家族、福祉施設職員、ヘルパーなど 30 名以上の福祉関係者の参加を得て、障害者からの⑧ニーズ聴取り訓練・⑨移動訓練・⑩生活援助訓練、など要援護者と共にし、炊き出しも含めて和気あいあいと実施した。

第6回 平成 23 年(2011 年)2 月 19 日(土) (栄区役所他 防災関係施設)

区災害対策本部、無線統括拠点、地域防災拠点(3 か所)、地域ケアプラザ(4 か所)、特別避難場所(2 か所)と災害ボラセンとの間で無線や電話で④ニーズの受発信・伝達訓練を実施。地域防災拠点関係者、栄警察署警備課、瀬谷区・泉区・磯子区等のボラネット、横浜市消防局、の参加を得て必要様式・経路地図を準備して⑪オリエンテーション体験訓練を行った。

第7回 平成 24 年(2012 年)2 月 25 日(土) (栄区役所、栄区福祉保健活動拠点)

被害想定を基に、区内 6 館の地域ケアプラザからニーズの提供を受け②、受付から活動報告まで災害ボラセン活動①を体験した。

第8回 平成 25 年(2013 年)2 月 16 日(土) (栄区役所)

⑪オリエンテーションのスキルアップを目的に、2 役を交互に体験して、様式の修正点や活動依頼の受け方、など種々の課題を抽出した。⑫e-防災マップのデモンストレーション実施。⑬資機材カード活用。

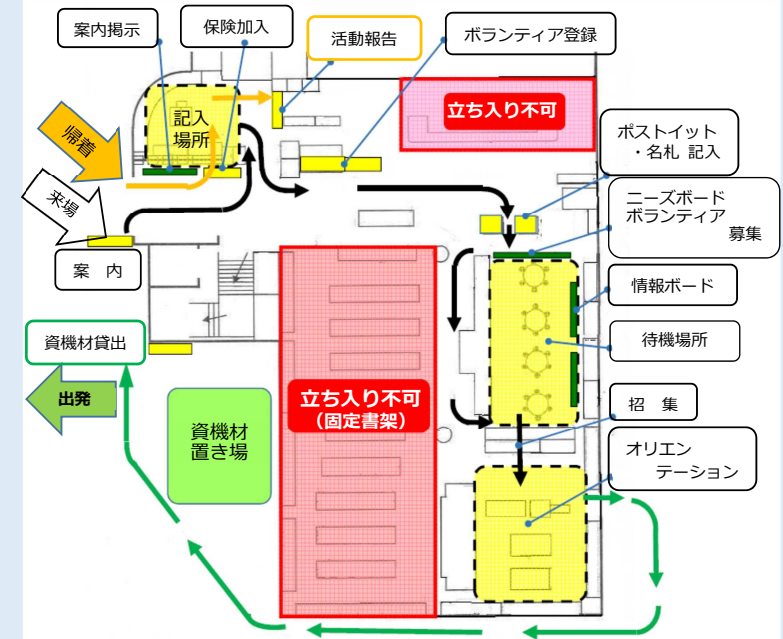
第9回 平成 27 年(2015 年)2 月 21 日(土) (栄区福祉保健活動拠点)

6 件のニーズ「ボランティア依頼票」を基に、⑭「活動依頼書」「ボランティア募集票」「現地への経路図」を作成、これを使用して別グループがボランティア役への⑪オリエンテーションを実施。

第10回 平成 28 年(2016 年)2 月 15 日(月) (栄図書館)

①災害ボラセンの流れ体験を開設から活動報告まで 4 種の想定活動を使って実施した。参加者を 2 グループに別け、並行して実施した気象災害等の防災ミニ講座と交互に受講してもらった。

● 災害ボランティアセンターの配置 (栄図書館での例)



5. ネットワークのあゆみく活動>

● 災害対策研修会

横浜栄・防災ボランティアネットワークでは会員の研鑽のためと、地域の防災力向上活動の原動力にするために、年度計画に従ってほぼ年に2回の研修会を多様なテーマを設定して開催してきました。

研修会は、まず防災に関して各界の実績者に講演を仰ぐ形で発足し、次いで栄区内の防災組織、防災関係者、地域の防災活動従事者の参画も得て、パネル討論会、災害ボラセンの役割の意見交換会、災害ボラセン運営の実技を含む講習会、ボランティア誘導に使う「e-防災マップ」の作成研修会 など、外部から講師を招くのと並行して会員主体で実施する内容に移行してきています。

また、研修会の当初は主として「地震災害」への対応をその基礎に置いてきましたが、最近の気候変動から、時間雨量 50mm ないし 80mm の豪雨頻度の増加、線状降水帯の出現などによる局地的豪雨災害の発生、これに応じて、栄区の地形・環境も考慮して、水害・土砂災害への対応の重要性を認め、クロスロード「防災気象情報編」など気象分野のツールも活用して、震災・竜巻・水害・土砂災害など広範囲の災害に対応した研修会に内容の改編も行なっています。これらの研修会は会員に限らず誰でも参加できることを唱い すべて公開で行っています。以下に実施してきた講演や研修の主なものを掲示しておきます。

(項目の内 (★) 印を付した講演・研修はネットワークのホームページに要録を掲載してあります。)

2009 年度 防災講演会 (★)

平成 21 年 (2009 年) 11 月 16 日 (月) 13 時 30 分～15 時 30 分

場 所: 小菅ヶ谷地域ケアプラザ 多目的ホール

「地域の防災力を高めるために “災害救援の現場から”」

レスキューストックヤード代表理事 栗田 暢之氏

【阪神淡路大震災での災害ボランティアをスタートに、団体名にもあるように、救援とそれに必要な資機材のストックからこの分野に参画。

現在では多くの災害ボランティア組織と共に「JVOAD」の設立準備に関わっている。】

講演では、「被災者はそのあとの方が圧倒的に長い」、「待ちのボラセンと出前のプチボラセン」、「地縁組織の役割・限界」、「地域の防災力」、「民生委員さんの助手で家具の転倒防止」、「名簿に勝る地域づくり」、「防災は明るいイメージで」、などの事項が実地の経験を基に伝えられている。



2010 年度 栄・災害対策研修会 (★)

平成 22 年 (2010 年) 5 月 29 日 (土) 13 時 30 分～16 時

場 所: 栄区役所 新館 4 階 8・9 号会議室

【講演】データから見る栄区 栄区危機管理担当 九十九澤 稔氏

【講演】栄区を襲う自然災害

1. 風水害 横浜地方気象台 防災業務課長 稲葉 和弘氏
2. いたち川の防災対策 栄土木事務所課長 清水 満夫氏
3. 地震災害 東京工業大学 教授 翠川 三郎氏



地域を取り囲む自然災害について区役所、土木事務所、気象台、から詳細な説明があり、横浜市の防災計画作成に携わられた翠川教授からは地域の災害史から学ぶ具体的な防災行動を話していただいた。

2011 年度 栄・災害対策研修会 第 1 回 (★)

平成 23 年 (2010 年) 9 月 3 日 (日) 13 時 30 分～16 時 30 分

場 所: 栄区本郷地区センター

「災害ボランティアセンターの役割は」 <被災地支援活動から学ぶ>

解説: 「災害ボランティアセンターの役割と機能」 運営委員 宇都宮 直哉

講演: 「災害現場を見て・今後の課題」 横浜市社協 若林 拓氏

報告: 「ALL311 東日本大震災」 情報ボランティアに参加して 運営委員 千葉 ひろみ

報告: 「東北災害ボランティア奮闘記」 運営委員 早福 修二

グループワーク: ボランティアセンターの役割・課題・開設訓練に向けて

(司 会) 副代表 佐野 勝彦

80 名以上の参加を得たグループワークの場で 災害ボラセンの役割/機能、今後の課題等 数多くのご意見を戴くことができた。

2. 釜石市災害ボランティアセンター



2011 年度 栄・災害対策研修会 第 2 回 (★)

平成 23 年 (2011 年) 11 月 20 日 (日) 13 時 30 分～16 時 30 分

場 所: 栄区本郷地区センター

「地域と災害ボランティアセンターとのつながり」

<地域・防災組織・行政の連携は>

第 1 回研修会の復習 運営委員 宇都宮 直哉

課題提起「栄村の奇跡」 運営委員 青木 航志

パネルディスカッション

(パネリスト)

栄区総務課長 見上 正一氏、

栄区子ども家庭障害支援課長 大庭 充男氏

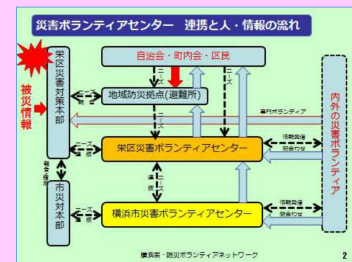
栄区社会福祉協議会事務局次長 田中 一樹氏、 庄戸小学校地域防災拠点運営委員 吉田 敏生氏、

ガーデン・アソシエ 自治会長 佐藤 明治氏、 横浜栄・防災ボラネット運営委員 青木 航志

(コーディネーター) 横浜栄・防災ボラネット副代表 大森 真由美

質疑および全体討議

区内の防災組織の責任者に一堂に会していただき、防災力の向上、災害時の連携 について意見を交わした。磯子区、泉区、戸塚区、ボーイスカウト横浜市連合会 などから多数の方々の参加を得た。



2012 年度 栄・災害対策研修会 第 1 回 (総会第 2 部として実施) (★)

平成 24 年 (2012 年) 4 月 21 日 (土) 14 時 30 分～16 時

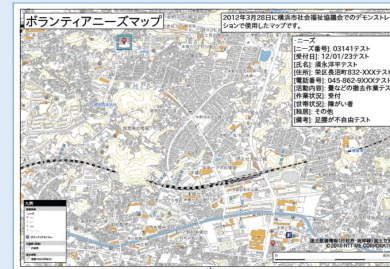
場 所: 栄区役所 新館 4F 8・9 号会議室

講演: 「マップを使った防災コミュニケーション」

防災科学技術研究所 災害リスク研究ユニット

特別研究員 須永 洋平氏

「災害に強い社会」として「防災協働構築社会」を目的に、「地域資源・物資」「負傷者対応訓練」「ボランティアニーズ」など多様なマップを紹介して頂いた。



5. ネットワークのあゆみく活動

e-防災マップ 活用研修会

平成 24 年(2012 年)

- 第 1、2 回：9 月 9 日・10 月 14 日（基礎）
第 3、4 回：11 月 11 日、12 月 9 日（応用）

平成 25 年(2013 年)

- 第 5、6 回：1 月 13 日・2 月 10 日（実施）
第 7 回：3 月 10 日（まとめ）

場 所：横浜市中野地域ケアプラザ

約 20 名の参加者で、「災害ボランティア誘導マップ」の作成を目標に計 7 回の講習を実施。

講師：運営委員 松田 成人、青木 航志



2012 年度 栄・災害対策研修会 第 2 回（★）

平成 24 年(2012 年)12 月 8 日(土) 13 時 30 分～16 時

場 所：栄区福祉保健活動拠点

講演「復旧から復興へー宮城県の前・現在・未来ー」
～3.11 被災地での e コミ活用事例から今後を考える～
(社)みやぎ福祉・防災情報化機構(ふくぼう)代表理事
宮城県災害ボランティアセンター、
東北大学大学院理学研究科 池田 真幸氏

3.11 時の宮城県における災害情報支援、特に災害ボラセンでの
マップの提供と豊富な活用事例について話して頂いた。



2013 年度 栄・災害対策研修会 第 1 回

平成 25 年(2013 年)7 月 7 日(日) 13 時～16 時

場 所：栄区福祉保健活動拠点 多目的研修室

テーマ：「栄区のこと一緒に考えてみませんか」

1. 「栄区防災計画について」

「栄区災害ボラセン運営マニュアルについて」

2. 「過去の栄区の災害について」

栄区の防災体制と災害時の共助についての基本と災害発生後の支援の進め方などを過去の災害に照らして
認識しあった。



栄区危機管理担当係長 古谷 敏夫氏

栄区社会福祉協議会 田中 一樹氏

運営委員 青木 航志

2013 年度 栄・災害対策研修会 第 2 回（★）

平成 25 年(2013 年)12 月 14 日(土) 14 時～17 時

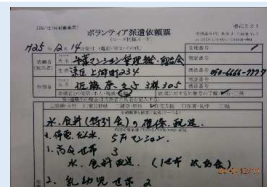
場 所：栄区福祉保健活動拠点 多目的研修室

テーマ：「被災地でのボランティアニーズ」

第 1 部：基調講演：「災害ボランティアセンター支援体験から」

川崎市社会福祉協議会 ボランティア活動振興センター 平林 秀敏氏

第 2 部：ニーズ聞き取り訓練：被災者役から支援要請(ニーズ)を受け、内容詳細を聞き取り、判断し、
「ボランティア活動依頼書」の作成に活かす訓練。7 種のニーズを A～G の 7 グループに分かれて
行い、聴き取り、それを「活動依頼書」にまとめる難しさ、を学んだ。これを次の「オリエンテー
ション」で活動するボランティアに伝える段階の訓練につなげることとしたい。



2014 年度 栄・災害対策研修会（★）

平成 26 年(2014 年)12 月 6 日(土) 13 時 30 分～16 時

場 所：栄区福祉保健活動拠点 多目的研修室

テーマ：「災害ボランティアセンターを もっと もっと もっと 知ろう」

1. 災害ボランティアセンターって何だろう？ 横浜市社協 田中 一樹氏
2. 栄区災害ボランティアセンターと地域の連携 運営委員 宇都宮 直哉
3. 災害対応カードゲーム「クロスロード」 運営委員 千葉 ひろみ

総合司会：役員 青木 航志

講演に続き、クロスロードの和やかな雰囲気の中で各グループからの発表で意見交換。次いで研修全般
に関して、特にボラセンについてその開設条件、開設の周知、防災計画上の立ち位置、協定の存在、支
援に関して市と県の関係、社協系と NPO 系のボラセン、など、金沢区などからの参加も得て質疑実施。



2015 年度 栄・災害対策研修会 第 1 回（★）

平成 27 年(2015 年)7 月 25 日(土) 13 時 30 分～16 時

場 所：栄区福祉保健活動拠点 団体交流室

テーマ：「あなたは どうする 豪雨・がけ崩れ」

防災講座：「栄区の豪雨・がけ崩れなどの被害状況」役員 青木 航志

「情報の入手について」運営委員 松田 成人

グループワーク：区内の地域別に 4 グループに分かれて討議とまとめ発表、



2015 年度 栄・災害対策研修会 第 2 回（★）

平成 27 年(2015 年)12 月 5 日(土) 13 時 30 分～16 時

場 所：栄区福祉保健活動拠点 団体交流室

テーマ：豪雨災害や土砂災害から命を守る

1. 災害の予知と避難行動どうやって知り、判断し、いつ・どこに避難するか
2. 防災ゲーム「クロスロード『防災気象情報編』」名古屋地方気象台開発のものを初めて使用
3. 身を守る防災情報の入手 携帯・スマホ・TV・ラジオ で得られる情報

◎意見交換・情報交換：地震災害・豪雨災害・土砂災害をどうかかわるか、情報の重要性を認識。

金沢区、戸塚区、鎌倉市(鎌倉女子大学)からの参加もいただき、身近な手段で防災情報入手の具体的方
法を伝え、情報の判断に、気象に関するクロスロードを市内で初めて実施することができた。



2016 年度 栄・災害対策検討会 第 1 回（総会第 2 部として実施 P.23 にも記載）（★）

平成 28 年(2016 年)4 月 16 日(土) 14 時～16 時 場 所：栄区役所 新館 4F

基調講演：「地域の受援力と広域支援体制のこれから ～最近の災害現場から考える～」中川 和之氏
(熊本地震の発生に急遽現地入りした 全国社協 園崎 秀治氏に代わって中川氏が講演)

パネルディスカッション：

合田 茂広氏、植山 利昭氏、田中 一樹氏、外山 薫氏、伊藤 徳経氏、大森 真由美氏

<司会> 中川 和之氏

災害被災地の状況とこれに対応した支援の体制を含めて広域支援体制の現状
について学び、NPO、神奈川県災ボラ、横浜市ボラネット会議、周辺区ボラネ
ット、区危機管理担当、栄区ボラネット によるパネルを実施。各自の立場、
今後の支援の多様化に伴う連携の形態などについて意見を交わした。



5. ネットワークのあゆみ＜活動＞

● 防災講座の実施と協力

平成 18 年の栄・防災ボラネット設立の際の目標項目としてあげられた、「平常時の活動」の柱である「防災講座の実施」を、設立の翌年 平成 19 年から実施してきました。

要望に応じ、地域や施設への出前講座の形式で、主として「電気紙芝居」（パワーポイント）を使用した「命を守る防災講座」を展開し、年間平均 15 回以上の講座を実施して、地域の防災意識の向上を図るためのお手伝いをするともに、地域や環境によって異なる多くの知恵を吸収して以後の講座に適用させていただくなどの効果も得ました。

講座の中心は、平成 7 年の「阪神淡路大震災」に範をとって、地震災害からいかに命を守るかを主体にし、その平常時行動として「家具の転倒防止」「家屋の耐震性の向上」を展開、なかでもボランティアグループ「いでたち」による家具転倒防止対策の実施と指導は、このために 日本ハウスマンテナンス協会の「ハウスマンテマスタ―検定」を事前に受講したメンバーによってその実効を上げてきています。

平成 23 年 3 月の「東日本大震災」に関連して、地震時の対応、迅速な避難の重要性を学び、広域の大災害による 行政や防災組織の崩壊を目のあたりにして、地域の防災体制と「防災力」の重要性を再認識、直後の復旧に災害ボランティアセンターの存在の重要性を学び、併せて「受援力」を意識して講座で触れることを意図してきています。

平成 26 年のバックビルディング型線状降水帯の停滞による「広島土砂災害」、平成 27 年の上流豪雨による鬼怒川氾濫を含む「関東・東北水害」、など局地的豪雨の頻度増大による 水害と土砂災害、いわゆる「気象災害」の発生頻度と激甚化に対応して、防災関係者だけでなく一般の人々が携帯電話やスマホによって情報を入手し それを活用するための方法、「気象災害と防災気象情報の関連」「防災気象情報の解釈」「防災気象情報の入手方法」をセットにして防災講座で伝える方法もとってきています。

防災講座で使用するツールと手法：

- クロスロード：災害時に会出する事例をテーマに使って行う防災カードゲーム。忌憚のない話し合いができ、地域の絆づくりにも寄与できる。阪神淡路大震災をテーマにした「神戸編・一般編」、「市民編」、「要援護者編」をはじめ、「学校安全編」、「大学生編」、などがあり、平成 27 年には気象防災を主題にした「防災気象情報編」が開発され、栄防災ボラネットは名古屋地方気象台の認可を得て活用している関東地区の 2 団体の一つです。クロスロードは対象者が聴覚障害者の場合は手話通訳者の助けを得て実施しますし、視覚障害者には介助支援者についてもらった上で、意思表示の Yes/No カードの代わりに、突起で表裏が認識できる○X カードを使用するなどの工夫を凝らして講座実施の範囲を広げてきました。
- 防災クイズ：予想外の問題も含め、災害をイメージさせ、実態を認識してもらう
- 防災ダック：幼児に反射的な動作を取る事ができるように遊びを通して訓練
- 防災交流会：防災講座後に意識がどう変わったか、地域の中で防災活動をどう進めたらよいかなどの話し合いを通して地域での広がりをめざします。地域や様々な団体との情報交換・顔の見える関係作りの場にもなります。
- 非常用炊出袋による食事作り体験と試食：災害時のメニューの発見や 集まって共に試食する席で災害に備える知識の交換もできます。



片面に突起のある○X カード

● 実施した防災講座のまとめと傾向の把握

下の表は、各年度の出前講座・防災活動の実施回数を対象者別に 6 区分して表したもので、単年度によるばらつきを考慮して3年ごとにまとめて表示してあります。

防災講座・防災活動の対象別実施状況									
年度(実施回数)	合計 回数	自治会 ・町会	福祉施設 ・団体	親子・ 幼児	小中学生	防災 フェア等	区外		
平成19年(9回) 平成20年(20回) 平成21年(17回)	46回	13	16	5	1	1	10		
平成22年(18回) 平成23年(38回) 平成24年(16回)	72回	21		13		15	7	3	13
平成25年(19回) 平成26年(15回) 平成27年(11回)	45回	13	10	6	2	10	4		

平成 23 年度は「3.11 東日本大震災」が発生した年で、この年を含む 3 年間の実施回数が前後の 3 年間の 1.5 倍に達して、「自治会・町会」「親子・幼児」「小中学生」向けの増加が顕著になっています。

また、「区外」の分類は、横浜市内では 鶴見、神奈川、中、西、磯子、金沢、戸塚、港南、緑、都筑などの各区に招かれてお手伝いをし、近隣の、東京都、横須賀市、逗子市、平塚市 との交流で実施した講座や、山口県宇部市でのセミナーに招かれた例もあり、これらの中で特記する講座例を下記に挙げます。

- 平成 22 年 11 月 16 日（火） 東京都社協(TVAC)「東京ボランティア市民活動センター コーディネーター養成講座」、東京都は横浜市とはかなり異なる防災組織・体勢であるため、都内の社会福祉協議会の職員からは、特に災害時の要援護者への対応とその避難体制についての質疑が多かったことは印象的でした。（担当：大森、宇都宮）
- 平成 22 年 12 月 5 日（日） 土木学会（神奈川大学）防災塾だるま（荏本孝久教授）主催のワークショップセミナー「市民の視点で地震防災を考える」、WS 5「横浜市民に対する防災情報の提供」広範囲の防災関係者の参加で、幅広い話題が提供されました。（担当：中川、宇都宮）
- 平成 23 年 1 月 22 日（土） 山口県宇部市「市民防災力アップセミナー」（宇部市文化会館）講演とパネル討論会「障害のある人への災害支援について一緒に考えよう」をタイトルに討議し、「栄・防災ボラネット」の活動と、冊子「わが子を災害から守るために」を紹介しました。（参加：大森、千葉）
- 平成 23 年 11 月 13 日（日） 第 20 回 全国ボランティアフェスティバル(青山学院大学) パネル討論会「災害時要援護者とながら」（コーディネーター：鍵屋一氏、パネリスト：大森他）
地域で平時から要援護者とのつながりを持つ立場と経験から栄区の例を伝え、他のパネリストからの見解なども聞けました。



5. ネットワークのあゆみ＜活動＞

● 10 周年記念事業

(1) 「2016 年度 栄・災害対策研修会」

平成 28 年 4 月 16 日（土） 2016 年度第 1 回研修会で「地域の受援力と広域支援体制」をテーマにして、講演会「地域の受援力と広域支援体制のこれから～最近の災害現場から考える～」、続いて、全国社協、NPO 団体ピースボートボラセン、神奈川県災害ボラネット、横浜市社協、金沢区ボラネット、栄区ボラネットの各防災組織関係者によるパネルディスカッションを実施しました。

（概要は P.17 の研修会欄にも記載）



司会の中川さん、
パネルの 合田さん、植山さん

パネルの 田中さん、外山さん、
伊藤さん、大森さん

パネルの皆さんの宣言で閉会

(2) 「10 周年記念南相馬一泊研修会」

平成 28 年 5 月 11 日（水）～12 日（木）、3.11 東日本大震災から 5 年が経過した福島県南相馬市と宮城県山元町を会員 22 名で訪問した。南相馬では「復興支援ボランティアセンター」として現在も継続している施設のセンター長から、震災当時から現在までのボランティア活動の話の伺い、山元町では津波の中で建物が残った中浜小学校周辺や復興が進みつつある町の様子を視察しながら、現地の語り部（震災当初の避難所の責任者）の話の伺い、改めて災害時やその後の状況を実感として感じ取った。その中で、避難所運営や外部からのボランティアへの対応など、現場での体験から生まれた工夫や知恵のお話は、災害への準備として語り継がれていくことが大切であると共に、栄・防災ボラネットとしても研修内容を生かした活動をして行くことが重要であると考えています。



復興支援ボランティアセンター長と和やかに意見交換



山元町の語り部と中浜小学校・慰霊碑の前で
語り部さんから貴重な経験談を聞く
（津波の中で残った中浜小学校、全国・世界からのメ
ッセージが書かれた 3000 枚の黄色いハンカチ）

(3) 「設立 10 周年記念刊行」として、本冊子を制作しました。

なお、10 周年記念事業（4）として平成 28 年 12 月に「災害時の連携にどう備えるか」（仮題）として、地域の各防災組織と災害ボランティアセンターの連携についての学びを予定しています。

● 刊行冊子：「わが子を災害から守るために」

平成 20 年度（2008 年度）の市民活動協同事業・啓発教材共同開発事業の「男女共同参画センター横浜」の教材募集に応募して選出され、同センターの協力を得て制作、2009 年 3 月に刊行されたもので、その後 2014 年に改訂版が発行されるまでの間、配布先からの多くの要望に応じて 2010 年 12 月に「第 2 刷」を追加印刷し配布しています。

平成 23 年の東日本大震災での巨大津波による災害を機に、改訂版を企画編集し「2014 年改訂版」を発行しました。

表題に表わされているように、乳幼児を中心とした「わが子」が災害時にどのような環境に置かれるか、公的な備蓄に頼ることの問題点と限界、そのために平常時に備えておかねばならないことは何か、など親子の防災環境をどう整えるかを主題に置いて編集されています。

家庭内とともに外出先での行動ポイント、子ども連れの避難、子どもの心の変化、妊産婦の心と体、など大震災を経験したママたちが伝えたいことも含めて構成されています。

（本冊子はネットワークの HP からダウンロードできます）



● 「栄・防災ボラネット通信」の発行

私たちはネットワークを広く知っていただくためと、会員と周辺の防災関係者を対象に考えて「栄・

防災ボラネット通信」を作成配布しています。当初は、会員がイベントで顔を合わせる機会以外で会員相互の交流を促すために会員の背景を紹介して、会員それぞれの分野での活動状況を伝えることを目的に、必要に応じて編集し、不定期に発行していましたが、最近はネットワークの活動を伝える広報誌として、年に 3 回（3、7、11 月）を目標に発行を続けています。

左は創刊 1 号（平成 21 年 3 月刊、8 ページ）の通信の表紙ですが、現在は毎号 4 ページにまとめて、20 号（下図）まで積み重ねてきました。



注）栄・防災ボラネットは「タッチくん 第 2 号」の使用を承認されています。



横浜栄・防災ボランティアネットワーク会則

- (名称)
第1条 この会は「横浜栄・防災ボランティアネットワーク」と称する。
- (目的)
第2条
1). 災害時には、栄区の防災計画に基づく災害ボランティアセンター開設・運営に参画・協力するとともに、区内外の災害ボランティア活動を支援する。
2). 平常時には、本会独自の防災訓練・研修会を通じて、会員の危機管理意識を高める活動を定期的に行う。
3). 日頃から地域防災組織（町内会・自治会及び地域防災拠点運営委員会・地域福祉関係機関など）との連携を密にしつつ協力体制を構築し、地域防災組織が行う地域住民の防災意識向上を図る活動に協力する。
- (活動)
第3条 この会は、会の目的を達成するため次の活動を行う。
1). 災害時栄区防災計画に基づく災害ボランティアセンターの開設と運営に参画・協力する。
2). 平常時会員相互の防災意識向上の研修・訓練・情報システムを構築する。
3). 防災関係機関、町内会・自治会及び地域防災拠点運営委員会・地域福祉関係機関などとの交流と情報交換・連携協力関係を構築する。
4). 災害時のボランティア活動を支援するコーディネーターの育成(研修・訓練)をする。
5). 他区の防災ボランティアネットワークとの連携・協力体制を構築する。
6). その他、本会の目的達成のために必要とされる活動をする。
- (会員)
第4条 この会は、会の目的に賛同し、前項の活動に協力もしくは支援できる個人（家族を含む）及び団体で構成する。
- (組織)
第5条
1). この会には、会員の互選により代表、副代表、事務局長、会計、監査の役員を置く。
2). 役員は総会にて選任し任期は2年とする。再任は妨げない。
3). 代表はこの会を総括し、副代表はそれを補佐する。

- (運営)
第6条
1). この会の円滑な運営を目的として運営委員会を置く。
2). 運営委員会の委員は、役員及び立候補や推薦された者から代表が指名した若干名で構成する。任期は次期総会までとして再任は妨げない。
3). 定例会、運営委員会、その他必要な会議は会員の総意に基づいて適宜開催する。
- (総会)
第7条
1). 定期総会は年1回代表が召集して開催し、議案について審議決定する。
2). 総会の議長は出席した会員の中から選出する。
3). 会の議決は出席者の過半数で決定する。可否同数のときは議長が決める。
- (事務局)
第8条 この会の事務局は栄区内に置く。
- (会費)
第9条
1). 会の経費は会員からの会費、寄付金、助成金その他の収入をもってあてる。
2). 年会費は個人、団体問わず、年1000円とする。退会時は会費を返却しない。
- (会計)
第10条
1). この会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。
2). 会計は年度終了後速やかに決算報告を作成し、会計監査を受けて総会で報告する。
- (その他)
第11条 この会則に定めのない事項は運営委員会にて協議して別に定める。
- (附則)
第12条
1). この会則の制定・改正は総会において承認を必要とする。
2). この会則は平成18年10月17日から施行する。
3). この会則は平成19年4月21日（目的2条、活動3を改定）から施行する。
4). この会則は平成25年4月20日（会員4条、運営6条を改定）から施行する。

- 入会の受付
- 私たちと一緒に活動しませんか、皆さんの力を防災に活かしませんか。防災は組織であるとともに、地域にしっかりと根を張ったものでなくてはなりません、そのために一人でも多くのご参加が必要です。
- 皆さんが自分と家族を守る意味でも、ご近所に身体の不自由な方や小さいお子さんを抱えるママがいっぱいいる場合も、来日して日も浅い外国人に対しても、地域として互いに支援しあうことの重要性を感じていることと思います。
- 私たちと一緒に災害を学び、その時どうする、その後をどう過ごす、などを話し合っ、事前の準備は何か、教え合っその輪を広げていくこともできます。気軽に私たちの講座や訓練を覗きにきてみてください。
- 栄区社会福祉協議会（横浜市栄区桂町 279-29）の受付で右のパンフレットに記入していただくか、または電話（045-894-8521）で申し込んでください。



編集委員：青木 航志、宇田川 淳、宇都宮 直哉、大森 真由美、佐野 勝彦
千葉 ひろみ、藤田 みちる、柳沢 恵子、山口 茉莉亜、山崎 咲恵
監 修：中川 和之（運営委員、時事通信社解説委員、気象庁業務評価委員）

【編集後記】
この10年を振り返って、開設訓練、研修会、防災講座の実施経緯を確認してきましたが、これがいとも思えない回数と内容になっていると感じさせられました。特に地域内外で開催した「防災講座」はそれぞれの対象の方々のご協力が重なったものであり、つくづく有難いと感じます。

どんな災害がいつ栄区を襲うか、これに備えて研修会を企画し、そこで得た知恵を活かして防災講座などの機会に地域に伝える、同時に 不幸にして発生した災害に対して地域防災拠点と連携して被災者をどう支援していくのか、災害の様相を想定しながら災害ボラセンを開き、運営していく訓練を私たちの本務として継続してきました。まだ十分ではないにしても、その方向と内容は正しかったと思います。 この栄区の防災環境と、災害に向き合う地域の中で、ボラネットの向かう道筋は・・・

地震に関しては、日頃の準備「家の耐震」、「家具の転倒防止」を徹底して行い、発生その時は「緊急地震速報」に従って身の安全を確保することですし、また頻発する豪雨災害・土砂災害に対しては、ひまわり8号や、地上レーダーを利用する三次元解析など、新たな技術による判り易い防災情報を、行政や地域の防災関係者が対象地域に適時・適切に伝えて事前避難につなげる体制を作り、同時に区民自身も災害を予測して自ら避難行動ができる機能を持つことが望まれます。

私たちのこれまでの活動は当然のことながら「災害その時に命を守る対策」、で展開してきましたが、災害のその時に次いで、「自宅を含む避難先での生命を守る」、特に「広い範囲の災害時要援護者」の困難を軽減する方策の重要性が311以後 最近の災害からも鮮明になってきたと思います。

幸いにして栄区内に広く在住分布しているボラネットメンバーがその行動の原動力になりますし、さらにその仲間を増やして前進の活力を得たいものです。 この冊子はそのヒントになることを願って筆を置くことにします。

記：編集委員を代表して 副代表 宇都宮 直哉